

第18回未来医療セミナー

**演題：骨格筋間質由来幹細胞の多分化能と
再生医療への応用**

体性幹細胞はES細胞にどこまで迫れるのか？

**演者：東海大学医学部基盤診療学系
再生医療科学 (Muscle Physiology & Cell Biology Unit)**

助教授

玉木 哲朗 先生

《要旨》

ES細胞、特にクローン技術を用いた自己細胞株の樹立は身体全ての組織・細胞供給源として注目されていますが、最近の社会情勢から移植医療への応用はまた遠のいた感があります。近年、幾つかの成体組織からも幹細胞が同定され移植医療への応用が検討されています。果たして、体性幹細胞は生体発生初期の未分化な細胞が生後まで残存したものなのでしょうか？もしこれらの幹細胞に、ES細胞に近い分化能があるならば「自己の細胞を用いた（ドナーを必要としない）免疫的拒絶反応のない理想的な移植治療」が可能となります。私たちは骨格筋間質の幹細胞にその可能性を見出しましたので、今回ご紹介させていただきます。

日 時：2006年2月15日(水) 18:00より

場 所：大阪大学医学部附属病院 外来棟4階第1カンファレンス室

連絡先：未来医療交流会(大阪大学 医学部附属病院 未来医療センター内)

Tel：06-6879-6557,6552, Fax：06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協 賛：21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-